俳句と川柳　～その重なりあうところ～　③

金澤　健

６．時事批評

これこそ、穿ちに並ぶ川柳の真骨頂ともいうべきものです。

サンプルをとれば濁っている平和　　（宮本凡器）

俳句は、時事を批評してはいけないという決まりはありません。

向日葵も天を見上げて右傾化す

昨今の御時世、向日葵までもが影響を受けて右傾化しているのでは、と感じるのは私だけでしょうか。気のせいであればいいのですが。

７．人の情け

これも、時事におとらず川柳の詠む対象としてよく取り上げられるもので、川柳作家の腕の見せ所かもしれません。

雨の通夜くるべき顔はちゃんと来る　　（片岡つとむ）

しみじみとした人情の機微が伝わってきます。

海水浴子の目じるしの母の尻

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

お母さんの大きなお尻（多分）が見えて、子供がほっとしている様子が目に浮かびます。

川柳も私の滑稽句も、共に「人の情のなんともいえぬ良さを、じわーっと」読む人に感じ取って貰えて、思わず微笑んで貰えれば、作者冥利に尽きるのです。

八木健会長によると、滑稽俳句のおかしみを醸し出す手法としては、上記以外にも「言葉遊び」、「誇張」他を挙げておられます。してみると、おかしみを醸し出す技法は、俳句の方が川柳よりも沢山揃っているのかもしれません。

最後に私の、今のところの結論としましては、

一　滑稽俳句としても通用し、川柳としても認めてもらえる五七五句は、必ず成立する。

一　その為の、詠む対象、詠む手法は上記で述べた通りである。但し、対象、手法共に、更に考察を重ねれば、もっともっと広がりが出てくる可能性を秘めている。

一　滑稽俳句であり、川柳であるような五七五句を俳句とは区別する為に、新しいネーミングを行いたい。俳諧を始祖とし、且つ、おかしみを追求する句であるので、ネーミングは俳句、若しくは、諧句しか考えられない。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

一　「俳句」は既に正岡子規に取られているので、選択肢は「諧句」以外にない。（本来、俳句で、おかしみの追及を怠っていなければ、諧句の出る幕はなかったであろう）

一　私としては、「諧句」を出来るだけたくさん作り、その良さを出来るだけたくさんの方々に分かって頂きたい。その為の、精進は厭わないということです。

以上、すべてを実践する為に（五七五句、句末切れ、誰でも知っている季語、分かりやすい、身の回りの事象でそうだなあと笑って貰える）次の句をもって、おしまいと致したいと思います。

鯉のぼり精をつけむと風を呑む

＊参考とした文献は次の通りです。

・俳句と川柳　復本一郎　著
・一億人の「切れ」入門　長谷川櫂　著
・川柳入門　はじめのはじめ　田口麦彦　著
・川柳×薔薇　樋口由紀子　著
・八木健の滑稽俳句術　八木健　著

（完）

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。